

会計プロフェッション研究科入学試験「口述試験（簿記）」出題例

問題

1. 商品売買取引において三分法で仕訳を行っているとして、7月10日に販売する予定の商品の代金1,000円を、7月2日に現金で売り手がすでに受け取っていた場合、7月10日には売り手はどのような仕訳を行う必要がありますか。
2. 期末商品の原価は@110円、時価は@100円、実地棚卸数量は900個であるとした場合、どのような決算整理仕訳が必要ですか。
3. リース取引は会計上、どのように分類されますか。所有権が移転しないファイナンス・リース取引において、貸手のリース物件の購入価額が分からず、借手によるリース物件の見積現金購入価額を100,000円（リース料総額から利息相当額を控除した金額と同額）とした場合、リース取引開始時に借手は利子抜き法でどのような仕訳を行いますか。
4. 買掛金20ドルを取引時点において為替相場1ドルあたり120円で計上していたが、決算時の為替相場は1ドルあたり100円でした。決算時において必要な会計処理はどのように行いますか。
5. 貸付金の利息として受け取った利息50,000円について、未経過の受取利息20,000円を次期に繰り延べるための決算整理仕訳を行いなさい。
6. 原価1,000円として計上していたその他有価証券について、決算時点で時価が1,400円となっていました。税効果会計を考慮しない場合、どのような決算整理仕訳を行いますか。また、税効果会計を考慮し、法人税等の税率（法定実効税率）が30%とした場合、どのような決算整理仕訳を行いますか。
7. P社が、資本金5,000,000円のS社の発行済議決権株式の100%を6,000,000円で取得して支配を獲得した場合において必要な、連結修正仕訳を示しなさい。またP社が、S社の発行済議決権株式の80%を6,000,000円で取得して支配を獲得した場合において必要な、連結修正仕訳を示しなさい。
8. 製造原価要素を製品との関連によって分類する場合、製造原価要素はどのように分類されますか。
9. 実際原価計算制度における正常な原価差異は、会計年度末において、どのように処理されますか。また、損益計算書にどのように記入されますか。
10. 製品原価の計算にあたって、製造間接費はどのように製品に集計されますか。